

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新居浜市立神郷小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒792-0884
愛媛県新居浜市神郷一丁目1-1

E-mail kzae-ad@esnet.ed.jp

Website http://kozato-e.esnet.ed.jp/cms/

幼児児童生徒数 男子 308名 女子 259名 合計 567名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校では、「めざそう 神郷 E環境」を合言葉に、地球を守るために自分たちのできる小さなことから環境問題に取り組んだ活動を前年に引き続き展開していく。スクールエコ活動を推進するとともに、地域の人材や自然との関わりを大切にしたい体験活動に取り組む。

具体的には、①全校 牛乳パック回収、②栽培委員会 グリーンカーテンづくり、③6年 修学旅行を利用したキャリア教育などを行った。

① 全校 牛乳パック回収

「全校的体制で牛乳パックの回収に取り組むことで、資源を大切にしようとする心と、環境を守るために自分にできることを実践しようとする態度を養う」をねらいとし、環境委員会が中心となって、給食の牛乳パックの回収に取り組んでいる。各クラスで洗い、乾かし、翌日に回収するという一手間を掛けることで、自分の行動が環境を守ることに繋がっているという意識が高まっている。



② 栽培委員会 グリーンカーテンづくり
 「グリーンカーテンづくりに取り組むことで、我々が自然から受けている恩恵を、実感を通して学ぶことができる」をねらいとし、栽培委員会が中心となって、グリーンカーテンづくりを行っている。苗植えの際には地域の方々にも協力していただき、環境を大切にする取組について、地域への啓発を行っている。夏季には、児童は植物がつくる日陰の涼しさを感じるとともに、節電への意識を高めることができている。



③ 6年 修学旅行を利用したのキャリア教育
 「自分の将来のライフプランニングを考え、夢や希望をもち、実現を目指して努力する態度を養う」をねらいとし、修学旅行の際に「キッザニア甲子園」へ行き、様々な職業を体験した。そして、自分の興味がある仕事を体験することで、将来の夢や希望をより強くもつことができた。また、世の中には様々な職業があり社会を支えていることや働くことの大切さを知ることができた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(キャリア教育)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

別子飴本舗・JA・郵便局（パンフレット）
「虫をそだてよう」NHK for School
「キャリアガーデン」（ウェブサイト）
職場体験完全ガイド（ポプラ社）
地球教室（朝日新聞）
キッサニア甲子園（ウェブサイト・パンフレット）
「つるにのって」（DVD）
ビジュアル版平和博物館・戦跡ガイド 等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

学校教育目標「豊かな心をもち、たくましく生きる児童を育てる」を受け、ESDの目標を「学校の教育目標を通して、人格の発達や、自立心、判断力、責任感などの人間性をはぐくむとともに、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」、「つながり」を尊重できる児童を育成する」とし、総合的な学習の時間、生活科を中心に、各教科、道徳、特別活動、学校行事など、横断的に指導計画を立てている。各教科等のつながりが分かる各学年の年間指導計画を作成して実践し、見直し改善するようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

ESD主任と各担当が連携し、活動の計画、実践、見直しを行っている。また、ESDに関する研修を行い、ESDの目的、活動内容等、教職員の共通理解を図り、年間指導計画にしたがって実践できるようにしている。
今年度は、コミュニティ・スクール導入に向けて、学校と地域、保護者が協働・連携して児童を育成できるように組織づくりを始めている。コミュニティ・スクール導入により、より充実した活動ができると考えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

教職員に対する学校評価を学期ごとに行い、様々な活動の問題点や改善点を話し合っている。また、保護者・児童に対しても年に一度、学校評価アンケートを行い、集計分析し、学校関係者評価委員会で話し合ったり、保護者等へ知らせたりしている。ESDの取組により児童の意識や行動に変容が見られ、積み重ねの大切さが確認できた。体験活動の中に、これまで地域の方の協力を得ながら実施してきたが、継続が困難となるものも出てきたため、今後の活動の見直しが必要となった。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

ESDの取組について、学校だよりやホームページなどで保護者や地域の方に知らせるようにした。今年度は、市で開催されているESDフェスティバルにおいて、本校の代表児童が学校の取組について発表した。毎年継続して取り組んでいたものの中で、ややマンネリ化していたものもあったが、学校全体で振り返り、改善したりもう一度意識し直したりすることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

主に公民館を通じていろいろな団体と連絡調整を行い、様々な活動の手助けをしていただいている。グリーンカーテンづくりは地域の環境美化部会、ジャガイモ栽培・田植えはJAのアグリ部会、アルミ缶回収は地域の作業所、牛乳パック回収は業者など、協力を得ながら活動を進めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

市内の小・中・高等学校の代表児童が集まり、ESDフェスティバルが開催された。その中の小学校2校、中学校1校、高等学校1校がそれぞれの学校の取組について発表を行った。本校も発表を行い、児童にとってよい経験の場となった。いろいろな学校の取組についての発表を聞き、子どもたちは刺激を受けていた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

児童会、各委員会を中心に日常的な活動を行うことができているが、今年度は、代表委員会でこれまでの学校の環境問題への取組について振り返り・話し合いを行い、エコ週間「エコ大作戦」を実施することとなった。エコ週間を設けることで、それまで以上に節電、節水、給食残菜ゼロ、牛乳パック回収への協力など、環境に対する全校児童の意識が高くなった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も、前年に引き続き「めざそう 神郷 E環境」を合言葉に、地球を守るために自分たちのできる小さなことから環境問題に取り組んだ活動を展開していき、スクールエコ活動を推進するとともに、地域の人材や自然との関わりを大切にしたい体験活動に取り組む。

主な内容としては、

1 スクールエコ活動の推進

(1) 全校での取組

- ・ 牛乳パック・アルミ缶回収
- ・ 「自然愛護」や「郷土愛」などを主題とした道徳学習の充実
- ・ 環境問題の授業の実施（理科、社会科、図画工作科・家庭科など）

(2) 栽培活動

- ・ 一人一鉢栽培
- ・ 校内花いっぱいなど季節感あふれる学校環境づくり

2 地域の人や自然と関わる体験活動

(1) 地域人材と連携した栽培活動

- ・ 公民館と連携したグリーンカーテンづくり

等を予定している。